

# 山口市総合計画

2008-2017

概要版

ひと、まち、歴史と自然が輝く交流と創造のまち 山口

# はじめに



本市は平成17年（2005年）10月に、山口市、小郡町、秋穂町、阿知須町、徳地町の合併により新「山口市」として新たなスタートを切りました。

少子高齢化の進展と人口減少社会への転換、分権型社会の進展や経済環境の地球規模での変化など、私たちを取り巻く時代潮流はかつてないほど大きなうねりとなっています。

国のかたちを変えていくような動きの中にあつて、豊かな市民生活と都市活力を生みだす、自立と自活のできる、しっかりとした自治体経営、都市経営を確立していくことがこれからのまちづくりに必要となっています。

こうした中、合併後最初の総合計画として策定しました本計画は、将来にわたって市民と行政がその目標を共有し続けることのできる指針となるよう、総合計画策定協議会、策定市民会議、まちづくり審議会における審議と検討、パブリックコメントの実施など多くの市民が携わった、市民と行政の協働による計画となっています。

また、住民自治を基本とした自治体経営を進めていくため、市民誰もがまちづくりの進み具合がわかるようにするための成果指標の設定や市民の満足度、重要度、納得度をベースとした市民の視点を生かす施策展開を盛り込んでいます。

そして、本市が踏み出すまちづくりの方向として、まちとしての価値を高め、世界に通用する個性的な都市形成を進めること、さらには行政能力の向上と広域的・国際的視野による地域経済の基盤づくりを通じた、広域県央中核都市の形成を行ってまいることとしております。

今後は本計画をもとに、市民の皆様とともに誰もが誇れるまち、住み続けたいまちとなるよう、取り組みを進めてまいりたいと考えております。

最後に本計画の策定にあたり、熱心に審議、検討いただきました総合計画策定協議会、策定市民会議、まちづくり審議会の各委員の皆様をはじめ、市民意識調査等を通じて御協力いただきました多くの市民の皆様にご心よりお礼申し上げます。

平成19年（2007年）11月

山口市長 渡 辺 純 忠

## 目 次

I	計画策定の趣旨	2
II	計画の構成と期間	2
III	まちづくり構想	
1	まちづくりの基本的な方向	3
2	大きな時代背景	3
3	まちづくりの目標	4
4	まちづくりの方法	5
IV	まちづくり計画	
1	施策別計画	7
政策1	支えあい健やかな暮らしのできるまち	9
政策2	いきいきと子どもが育ち、人がよりよく生きる、文化をはぐむまち	12
政策3	安心・安全な暮らしのできるまち	15
政策4	自然環境と調和した暮らしのできるまち	18
政策5	機能的な都市基盤が整い、発展していくまち	20
政策6	市民生活を支え、地域の活力を生む産業のまち	22
政策7	ともに力をあわせてつくるまち	25
政策8	市民の信頼に応える行政経営	26
2	プロジェクト事業	27
3	財政の見通し	28
4	地域の基本的構成と地域づくりの方向	29

# I 計画策定の趣旨

山口市では市の長期的なまちづくりの方向性を示す最も基本となる計画として山口市総合計画を策定します。

この計画は、本市のまちづくりの基本的な方向を踏まえ、将来にわたりめざすまちの姿の実現に向けて、市民と行政が、共通の方向性・目標に向かって行動し、一体となってまちづくりを進めるための指針となるものです。

本市は平成17年(2005年)10月1日に山口市、小郡町、秋穂町、阿知須町、徳地町の合併により新「山口市」として新たなスタートを切りました。

新しいまちとしての一体感を醸成し、多様で多彩な各地域が持つ潜在的な力や特色を発揮して、

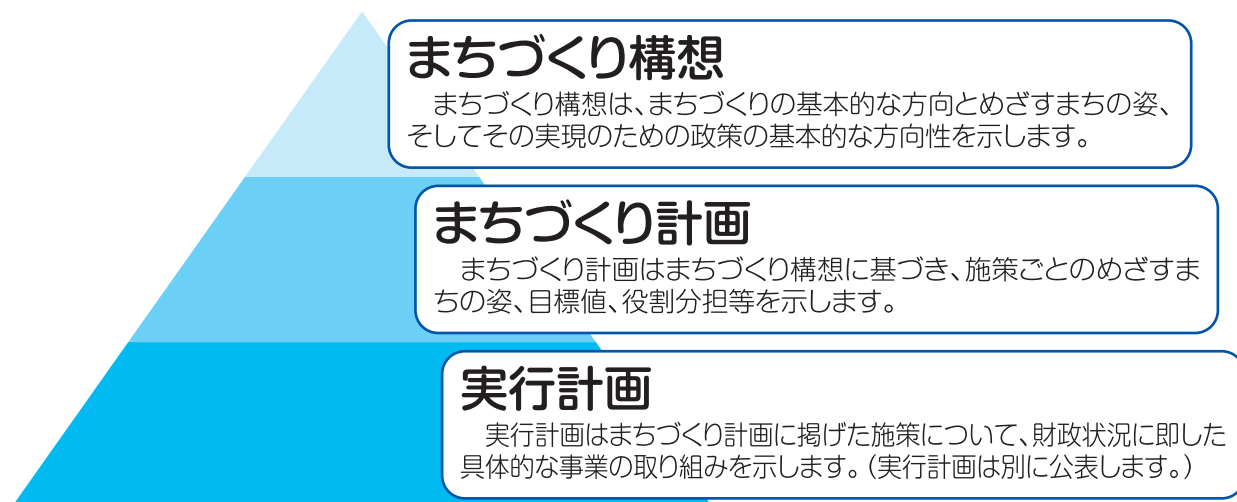
存在感と求心力のあるまちづくりを進めることが大切になっています。

私たちを取り巻く社会環境は、少子・高齢化の進展と人口減少社会の到来、経済環境の変化、社会の成熟化に伴う意識の変化と生活様式の多様化など様々な面で変化を続けています。

また、地方分権の進展に伴い、住民自治の原則に基づいて、自治体自らが魅力あるまちづくりに取り組む姿勢が必要であり、市民と行政の協働によるまちづくりを実行していくことが重要な時代となっています。

こうした背景を踏まえ、本市の新しい時代を見据えた総合計画を策定するものです。

# II 計画の構成と期間



山口市総合計画は、まちづくり構想、まちづくり計画、実行計画の3層で構成します。

